学　年	教科等	題材名	日　時
第５学年	音楽科	ぼく・わたしのうた	令和５年７月７日(金)５校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	【思いや意図を連鎖させるためのしかけ】 本題材では、思いや意図を連鎖させるために、「生み出す」段階でゴールとなる学級ごとの思い（テーマ）を設定することで、各グループで、同じ方向をめざして練習を進め、他グループの思いや意図も参考にしやすくなると考える。 本時を含めた「挑む」段階で使用する学習プリントは、１単位時間のなかでの思いや意図の変容を記録し、誰でも見られるように、タブレット型端末を使って共有し、他学級や本時までに出た思いや意図を掲示しておくことで、新たな思いや意図をもつときの参考にできるようにする。
研究内容２の手立て	【自分たちの表現を客観的に捉える力を付けるためのしかけ】 自分たちの表現を客観的に捉える力がまだ乏しいため、本題材では、客観的に捉えるときの視点を増やすことを目的とする。そのために、練習の前に他学級や教師の表現を聴いたり、範唱と比較させたりしながら、他学級や教師の表現に対してアドバイスをする時間を設ける。そうすることで、自分たちの表現をふりかえる際の視点をもち、より多くの視点から自分たちの表現を捉えることができるようにする。さらに、この時のアドバイスも全体で共有することで、視点をさらに増やすことができるようにする。

○　子どもの姿からの報告

研究内容２：他学級の表現にアドバイスをする。

今日も、他の学級にアドバイスをするところから始めましょう。

みんなで、声の出し方を揃えたら、もっときれいに聴こえるんじゃないかな。

弱く聴こえてくるから、テーマの「さわやか」に合っていない気がするな。

思いや意図【例示】を表現するための練習方法について話し合う。

例えば、「明るい声にしたい」という思いや意図だったら、どのような練習方法があるかな。

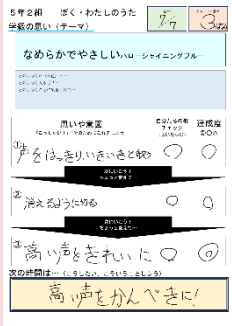
最初に思い切り笑ってから、歌ってみる練習をしたらどうかな。

試しに、笑顔のまま、歌ってみたら、明るくなったよ。

研究内容１：自分たちの思いや意図に沿って練習方法を考え、練習をする。

ここだけみんなの音が合っていないよね。だから、ここはピアノに合わせてみよう。

ここは、カクカクした感じではなく、このように滑らかに歌いたいよね。



使用したワークシート

研究内容２：自分たちの表現を録音し、それを聴いて次時への思いや意図をもつ。

次の時間は…（こうしたい、こういうことしよう）

なめらかに繋げて歌えるようにする。

ううん、まだつながって聴こえないよね。次回は、そこから練習しようよ。

○　考察

今回、これまでの音楽科の学習の進め方ではなく、自分たちで試行錯誤しながら、自分たちで学びを構築していくという方法にしたことで、以下のことが見えてきた。

○　子どもが上手い練習方法を見付けられなくても、自分たちで学びをつくっていくことで、今の学びの現状（自分たちにどのくらいの力が付いているか）を自覚できる。また、このような学習の流れにすることで、子どもがこれまでの教師との学習での学びや、習い事等の日常での学びを生かす姿が見られた。

○　このような子どもに任せる授業と同時に、音楽科の学びの土台となるような授業（学び方を教師が教えていく授業）も必要であり、両者のバランスを考えていかなければならない。

○　こう歌いたいという思いや意図を、仲間と共有する時間を十分に確保する必要がある。そうすることで、子どもがもっと主体的に学習に臨むことができると考える。

以上のことから、例えば、研究内容２は、学びの土台づくりの授業で身に付けさせていくことも考えられる。また、短い曲を自分たちでつくり上げる経験を積ませるなど、発達の段階等も考慮する必要があると考える。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

○　学級の思い（テーマ）の表現に向け、自分たちや仲間の表現を客観的に捉え、成果や課題から次なる思いや意図をもつことができる。
○　自分たちや仲間の思いや意図に合った練習方法を考えて実践し、思いや意図に合った表現をするための歌唱の技能を身に付けることができる。

○　指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり　（★は評価にかかわるもの）
1　他学級の表現を鑑賞し、思いや意図の実現のためのアドバイスをする。 ○　他学級の表現の鑑賞 ○　表現を客観的に捉える視点【共有】 ・(例) 揃っている音程、思いや意図に合う強弱　等 ○　本時のめあて 学級のテーマが伝わるように、前半部について、思いや意図をもち、それに合った練習をしよう。	○　アドバイスの際は、他学級の学習プリントを見て、「～するとよい」や「～してみたら」という表現で書かせることで、相手の思いや意図を踏まえて建設的なアドバイスをすることができるようにする。 ○　アドバイスの内容は他グループも見られるようにしておくことで、視点を共有し、自分たちの表現を客観的に捉える際にも生かすことができるようにする。 ○　本時は、教材曲の前半部（斉唱）部分についてのみ考えさせることで、学級のテーマをどのように表現していくかということに焦点を当てて考えることができるようにする。
2　思いや意図を表現するための練習方法について考える。 ○　思いや意図【例示】を表現するための練習方法【話合い】 思いや意図【例示】 もっと、明るい声で歌いたい。 （予想される方法） ・　口を大きく開けて歌う。 ・　楽しいことを考えながら歌ってみる。 など	○　実際にありそうな思いや意図を例示し、全員でそれに合った練習方法を考えさせることで、学習の進め方や考え方を知り、自分たちの活動の参考にすることができるようにする。
3　自分たちの思いや意図に合う練習をする。 ○　本時、最初の思いや意図【確認】 ○　自分たちの思いや意図に合った練習	○　前回の学習プリントを基に、本時、最初に取り組むべき思いや意図を確認し、その練習方法について話し合わせることで、スムーズに活動に入ることができるようにする。 ★　思いや意図をもったら、その都度学習プリントに記入させる。また、学習プリントに変更が出た時は、その都度提出しなおすようにさせる。そうすることで、全員が、仲間の学習の進め方や、思いや意図を参考にすることができるようにする。 ★　思いや意図がもてないときや練習方法に悩んだときには、近くのグループや教師に相談をしたり共有されている学習プリントを参考にしたりするように伝える。そうすることで、どのグループもさらに豊かな表現をめざすことができるようにする。
4　本時の表現を録音し、ふりかえって、次時への思いや意図をもつ。 ○　本時の表現の録音 ○　録音から分かる成果と課題の分析 ○　次時への思いや意図	★　全グループに、本時の表現を録音させ、さらに、それを聴いてふりかえる時間を設けることで、身に付けた「表現を客観的に捉える視点」を用いて、成果や課題を分析できるようにする。 ★　分析したことを基に、次時につなげたい思いや意図について話し合わせることで、次時への見通しや意欲をもつことができるようにする。

○　本時の評価規準

○　学級の思い（テーマ）の実現に向け、自分たちや仲間の表現から成果や課題を見いだし、次なる思いや意図をもっている。
（思考・判断・表現①）【記述分析・行動観察】
○　自分たちや仲間の思いや意図に合った練習方法を考えて実践したことにより、歌唱表現が変容している。
（知識・技能①②）【歌唱分析・行動観察】